

土しやさいがいをおこさせないために

富士小学校 三年 三浦 みうら えちか

今年の六月に、九州地方で大雨がふりました。その大雨でなくなつた人や、けがをした人もいるそうです。わたしはこの時、富士吉田市まで来たらどうしよう、と心ばいしていました。その時とてもわかつたので、土しやさいがいに<sup>あ</sup>ついて調べてみることにしました。土しやさいがいの多くは、大雨がげんいんでおこるそうです。一時間に二十ミリいじよ

うの強い雨がふつたり、ふりはじめてから雨りよ<sup>あ</sup>うが百ミリをこえると、土しやさいがいがおこりやすくなるといわれているそうです。

今年の六月の台風では、九州地方で、線じ<sup>よ</sup>うこう水たい<sup>い</sup>というものが発生していたそうです。線じ<sup>よ</sup>うこう水たいとは、せきらん雲という雲が連ぞくして発生し、おびのよう<sup>あ</sup>に連なつた雨雲が、同じ場所に長時間つづくことをいうそうです。これが発生すると、ひじよ<sup>あ</sup>うにはげしい雨がふりつづくため、こう

水やがけくずれが発生するきけんせい<sup>し</sup>がき<sup>ゆ</sup>うげきに高まるそうです。わたしは、き<sup>ゆ</sup>うげきに高まるなんてこわいな、と思いました。そこで、<sup>っ</sup>土し<sup>ゃ</sup>さいがい<sup>を</sup>ふせぐためのたいさくはないのかな<sup>。</sup>と思い、調べていると、<sup>っ</sup>砂防ダム<sup>ー</sup>という言葉が目に入りました。砂防ダムとは、山からながれてきた土や砂を止めるためのこうぞう物で、土し<sup>ゃ</sup>さいがい<sup>による</sup>ひがい<sup>を防ぐ</sup>ために山の中の川やさわに作られたものだそうです。ほかの県

でも、まだ土し<sup>ゃ</sup>さいがい<sup>がお</sup>きているので、も<sup>っ</sup>とたくさん砂防ダムをふやせばいいの<sup>に</sup>、と思いました。

次に、土し<sup>ゃ</sup>さいがい<sup>から</sup>すばやくにげるためには、ひなん場所を決めておいたり、ひじょう持ち出しぶくろを用意しておいたりすること<sup>が</sup>大切<sup>という</sup>ことが分かりました。わたしの家には、ひじょう持ち出しぶくろがないので、こんど家族で話合<sup>っ</sup>てそろえたい<sup>と</sup>思います。

土<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>ゃ<sup>や</sup>さいがいについて調べていて、っぜっ  
たいに自分だけは大じょうぶ<sup>じょうぶ</sup>。と思っ  
てはいけないということも分かりました。自分  
だけは大じょうぶ<sup>じょうぶ</sup>なんて思っ  
ていたら、本当に土<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>ゃ<sup>や</sup>さいがいがおきた  
時に、にげおくれ  
てしまいかもしれないし、にげ  
方もひなん場所  
が分からなくなっ  
てしまいかも  
もしれないから  
です。そして、自分と家族の安全をかくにん  
して、そのあとに自分の周りの人安全もかく  
にんする、という  
ことが知れてよ  
かったです。

これからも土<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>ゃ<sup>や</sup>さいがいについてもっ  
と深く知れたらな  
と思います。